

2013年10月31日

1. DWST での 3 年次における活動方針の説明

2013年10月10日に上村専門家はDWSUのアマル総裁に対し、3年次の活動内容や機材調達を主体とする説明を行いました。また、アマル総裁からは本プロジェクトの最大の懸案事項である新規研修センター建設の見込みに関する説明がありました。総裁の説明によれば、2013年9月の政府の燃料代に対する補助金が中止されたことにより物価が高騰し研修センターの建設に大きな影響を与えているということでした。専門家は3年次の活動期間である2014年5月末までに工事を完了するようにアマル総裁に強く要請しました。

また、10月10日の午後からはDWSTの関係者全員を対象とした本プロジェクト3年次活動の説明会が実施されました。この説明会は専門家がスーダンに入国前に入手してきた関連調査結果を反映した最新の内容になっており、説明会で専門家は、DWSTの予算確保をはじめとする自助努力が高く評価されていること、また、DWSTはスーダン全土の研修センターの強化を積極的に実施する必要性があることを力説しました。

	
アマル総裁との協議	DWST 関係者への説明

2. ナイロビでの国際会議 (IWA) への参加

上村専門家とDWSTのエティダル研修センター長は10月15日から10月19日にナイロビで開催されたIWAのセミナーに参加しました。セミナーには数多くの援助機関、国際機関、政府機関、NGO及び水関連企業がブースを確保し、それぞれの活動実績を紹介していました。10月17日には国際会議場でJICAのセミナーが開催されました。セミナーはJICAエチオピア事務所の高橋企画調査員がモデレーターを務め、パネラーとして、モロッコの水道電力公社 (ONEE) のナビル氏、ケニア水サービス規制委員会のジャガー委員長、ケニア無収水管理プロジェクトの上田総括、スーダンのエティダルDWSTセンター長及び上村専門家がそれぞれのテーマについてプレゼンテーションを行いました。

これらのプレゼンテーションの中で、スーダンの水供給人材育成プロジェクトが確実な研修予算を毎年確保し、様々な研修を実施していることに対し参加者から高く評価され、モロッコとスーダンの技術交流が2012年より毎年実施されていることも注目されました。この他、ケニアで実施されている無収水管理プロジェクトの事例は、今後スーダンが水道事業を実施する上で参考となる活動でした。

		
JICA 事務所での事前協議	センター長のスピーチ	ケニアの水サービス規制委員会の会長との面談

3. 北コルドファン州の研修センターの進捗確認

上村専門家は JICA スーダン事務所の承認を得て、10 月 22 日から 23 日にかけて北コルドファン州を訪問しました。そして、州水公社の総裁、公共事業大臣と面談し、研修センターの早期完成を要請しました。これに対し公共事業大臣は、10 月末時点で研修センターの 75%が完了しており 11 月末までには完成すること、12 月上旬に研修センターの完成記念式典を開催することを明言しました。

協議後、研修センターを訪問すると公共事業大臣の説明通り研修センターの基本工事は終了していました。残りの作業は電気配線と内装工事及び必要な事務用家具の設置を残すのみで、州水公社は研修センターのスタッフを既に配備している他、2014 年からの研修予算も確保していました。このような北コルドファン州の積極的な対応は他の州の研修センター開設に大きなインパクトを与えることとなります。

		
州公共事業大臣との協議	研修センター外観	研修センターのスタッフ

4. 水事情調査

北コルドファン州の州都・オベイド市の人口は約 50 万人で、スーダン南部や西部諸州を結ぶ内陸交通及び空路の要所となっています。この都市の水道用水源は 2 ヶ所に建設されています。市の内部のワジに建設されている貯水ダムはイギリスの植民地時代に建設され、広大な敷地に 4 つのダムが整備されています。このダムから供給される水量はオベイド市全体の 15%を賄っています。しかしながら、貯水ダムは雨季に集中する表流水であり、原水の濁度が高くなっています。また、貯水ダムからオベイド市内への導水管は老朽化した石綿管であることから漏水が多発しています。そのため、現在スーダン政府はこのダムからの導水管の取り換え工事を政府予算で実施しています。

一方、オベイド市から北 50 キロの Bara 市南部には北東から南西にかけ 2 列に配列され

た 10 本の井戸群が建設されており、ここからオベイド市内の 75%の飲料水が供給されています。この地域には白ナイル州から連続しているヌビア砂岩層が分布しており豊富な地下水が存在していたため、50 キロも離れた場所に井戸群が建設されました。

		
オベイド市南部の水源用ダム	井戸建屋の外観	主導水管の地上部

5. 第 5 回 JCC の開催

第 5 回の JCC は 2013 年 10 月 31 日に開催されました。この会議には大使館、JICA スーダン事務所、国際機関からは UNOPS が参加した他、16 州及びハワタプロジェクトから関係者が集まりました。特に、2013 年 8 月に独立した西コルドファン州や 2012 年 1 月に独立した中央ダルフル州及び東ダルフル州の水公社から参加者があったことは特筆すべき点です。

JCC においては、上村専門家による 3 年次の活動内容の説明の後、PDM(4)の改定案が示され、承認されました。また、スーダンの水道料金制度の問題点が議論された他、衛生分野のコース新設に対する説明と議論、各州水公社研修センター施設整備状況と研修実施の有無が確認されました。エティダルセンター長は州レベルでの研修ユニットが拡充していることから、DWST が今後積極的に州レベルの研修センターを支援する方針を表明しました。

		
センター長のスピーチ	各州から参加した JCC メンバー	3 年次活動の説明

6. 全体協議と研修施設の現状確認

専門家は 10 月 9 日から 11 日にかけてパイロット州の現状を確認するための現地調査を実施し、その後上村専門家が 10 月 21 日より 3 年次の活動の基本方針の説明と各種協議を実施しました。

白ナイル州の研修センターの日常的な維持管理システムは 2 年次に完成しており、ほぼ完全な形で実施されています。また、センナール州とは異なり、維持管理専用のスタッフが配備されているので研修センターや庭の手入れも確実に実施されています。

センナール州水公社は、老朽化した倉庫を改修して研修センターを開設しました。もと

もこの建物は天井が低く建物の容積が小さいことから閉塞感がありました。また、研修センタースタッフの施設の維持管理に関する意識が低く、芝生を張る予定の庭は雑草に覆われていました。定期的な清掃は建物内部では実施されているものの、屋外を含めた研修センター全体の環境整備に対する意識は未だに醸成されていません。

		
3年次活動の説明会	研修センター（白ナイル州）	研修センター（センナール州）

7. 研修支援

3年次におけるパイロット州での最初の研修は、山本専門家による白ナイル州での管網管理コースと佐藤専門家によるセンナール州でのデータ管理コースです。これらの研修は10月27日から開始され、管網管理コースが10月31日まで、また、データ管理コースは11月7日まで実施されることになっています。これらの研修に際して専門家は、研修実施体制の再確認、研修スケジュール作成支援、研修施設および機材の現状確認、研修センター運営予算書の作成支援、研修データベースの作成支援、研修内容への助言、講師との面談、スケジュールの確認等を実施しました。

		
開講式（データ管理コース）	専門家プレゼンテーション	センナール州研修実施状況

（略語説明）

DWSU： Drinking Water and Sanitation Unit （飲料水・衛生局）

DWST： Drinking Water and Sanitation Unit Training Center （飲料水・衛生局研修センター）

IWA： International Water Association（国際水協会）

ONEE： National Drinking Water and Electricity Corporation in Morocco（モロッコ国営電力・水道公社）

UNOPS： United Nations Office for Project Services（国連プロジェクトサービス機関）

JCC : Joint Coordination Committee (合同調整委員会)

PDM : Project Design Matrix (プロジェクト・デザイン・マトリックス)